

カジノは、日本を醜くする。 ～「観光立国」には、何が大切か

—地球市民の書棚から③②

地球市民 大村 昌宏



カジノができる巨大施設をつくり、インバウンド、海外からの観光客を誘致する。安倍政権が推進する「統合型リゾート(IR)実施法案」の主旨だ。海外からの観光客を増やす、人口減少社会の日本にとって観光立国は重要な産業戦略の一つだ。しかしIR・カジノを「戦略の柱」にするには多くの問題点がある。むしろ「美しい日本」を醜くし、大切な日本の観光資源を駄目にする。今回はカジノと「観光立国」について考えてみた。

1. カジノは世界中にあり過当競争の時代。これによって海外観光客が大幅に増えるとは思えない。そもそもカジノの真の目的は、インバウンドではない。兆円単位の投資をするカジノ資本の真の目的は、日本人の懐だ。
2. IR統合型リゾート施設というが、コンクリートで作ったハリボテ施設の集客力には限界がある。すでに日本中に宿泊型のテーマパークがあり激しい競争になっている。
3. カジノは、博打。日本人の伝統的な倫理観に反する。しかもすでに日本には、ギャンブル依存症が 320万人も存在する。カジノを合法化することは、日本を醜くし、治安の悪化を招く。
4. 日本の真の観光資源は何か？カジノはむしろこの日本の観光資源を壊すものとなる。観光立国へのヒントがスイスにある。

1. カジノ資本の狙いは何か？

IRカジノ開設の目的は何か？以前この点について書棚 26「アベちゃんとギャンブル」(2017年1月号)で論じた。

……ずばり狙われているのは日本人の懐だ。国際カジノ資本は、太ったカモが沢山いる場所にカジノを開きたい。それには日本の大都市は格好の狩場。狙われているのは「日本人の貯蓄」。どうやらカジノの利権は大阪がMGM、横浜はサンズで、裏の話は付いているのではないか。オリンピックや大阪万博もこのシナリオに沿っている。話がついているなら、ビジネス側は急ぎたい。「早くしろ！」「何しているのか」という矢の催促が、与党の愚挙の背後にあると想像してしまう……という山田厚史さんの指摘を紹介した。

<山田厚史の「世界かわら版 123 回 2016/12/8
<http://diamond.jp>>

そしてカジノ推進派の理論的バックボーン、谷岡一郎氏(大阪商業大学学長・教授)のビジネスモデルを紹介した。……ハイローラーと呼ばれるギャンブル愛好家はカジノのお得意様。しかしこの種のギャンブラーだけを相手にしては、経営が安定しない。一般の方々に参加できる広い裾野が必要。一定の所得と貯蓄を持つ「分厚い中間層」がいる日本の大都市圏は「大変魅力ある市場」……と国際カジノ資本の本音を代弁している。

さらにカジノ資本が日本進出を急ぐのには理由がある。米国のカジノ資本は、マカオに進出して大儲けし